

キャンパスライフはバリアフリー!

障害のある学生の学びをサポート



アクセシビリティ支援室

北星学園大学には、障害のある学生が他の学生と同じように学生生活を送れるよう支援する「アクセシビリティ支援室」(以下、支援室)があります。本学は法施行以前から障害のある学生を積極的に受け入れてきた歴史があり、2016年の障害者差別解消法施行に伴い、私立大学としていち早く支援室を開設。支援室スタッフだけでなく、教職員や学生サポートスタッフなどが協力しあい、障害のある学生の学びをサポートしてきました。

障害によって学びの機会が失われることなく、一人ひとりが自分らしく学生生活を楽しめる環境を整えることが支援室のミッション。安心して学べる環境が整うことで知的好奇心を開花させ、進路の夢をかなえて社会で活躍している卒業生も少なくありません。

●教えてくれた人



助教
(公認心理師、特別支援教育士)
まき なえ しー か
蒔苗 詩歌さん

CSW キャンパスソーシャルワーカー
(社会福祉士、精神保健福祉士)
きた の まき
北野 麻紀さん

Accessibility Support Office

Discover 01

経験と専門知識豊富なスタッフが常駐 支援機器も充実しています

北野さんは支援室開設時からの担当者であり経験豊富なCSW。今春着任した蒔苗さんも公認心理師等の有資格者で、専門知識も豊富なスペシャリストです。お二人は、支援を必要とする学生はもちろん、障害のある学生に配慮した授業改善に取り組む先生方にとっても頼れる相談相手です。

拡大読書器や読み上げソフト、ワイヤレス補聴システムなど、障害に応じた支援機器も充実。いつでもすぐに使えるよう、定期的なメンテナンスを行うのも支援をコーディネートするうえで大事な仕事です。さらに、教材の点訳に使う点字プリンターや立体・触図プリンターも配備。外注すると数週間以上かかるところを2~3日で仕上げます。



障害の状況は十人十色 だから支援はオーダーメイド

障害の状況は一人ひとり異なるため、必要な支援も千差万別です。支援室では一人ひとりと丁寧に面談を行い、担当教員や関係各所とも話し合いながら、必要な支援や配慮をコーディネートします。教室移動が困難な学生への付き添い、講義室に合う聴覚補助システムの整備、車いすの高さに調整した机の運び入れなど、その内容はさまざまです。先生方にもガイドブックを配布し、障害のある学生に配慮した授業づくりにご協力いただいています。

障害のある学生も支援を受けるなかで、自分の障害のことを知り「これならできる」を増やして、周囲に説明できる力(セルフアドボカシー)を養います。その力は、社会で自立して生きていく上で大きな支えとなるのです。

Discover 02

Discover 03

献身に宿る北星マインド 学生サポートスタッフも活躍中！



2017年、聴覚障害学生を支援する取り組みの全国コンテストで3位入賞

支援室では学生サポートスタッフも重要な存在です。授業の聞き取りやノートを取ることが困難な学生のためにノートテイクや要約筆記、目が見えにくい学生のためのパソコン操作補助など、障害のある学生が充実した学生生活を送るためにできることを、学生サポートスタッフも一緒に考えながら取り組んでいます。中でも情報保障としてのノートテイクには高いスキルが必要なため、努力と研鑽が不可欠。決して簡単な仕事ではありませんが、スピーディーに情報を整理して文章化する力が養われます。ノートテイクのスキルを活かして、卒業後に裁判所事務官や文字通訳ボランティアとして活躍している人もいます。

※ノートテイク：聴覚障害等への情報保障方法のひとつで、口頭説明や音環境について、パソコンや筆記などによって文字で伝えること。

Discover challenge

学びたいことがある。かなえたい夢がある。障害を障壁にしない北星パーソンのリアル。



支援がある、自由がある 大学生生活を楽しんでいます！

[在学生]
藤木 柚安 さん
文学部 心理・応用コミュニケーション学科2年
(北海道札幌視覚支援学校 出身)

北星キャンパスは広くて人も多いので教室移動が少し不安でしたが、最初は支援室のスタッフに付き添ってもらい、慣れてくるとひとりで移動できるようになりました。授業で使う資料は支援室でWordに変換してもらい、音声読み上げ機能や点字データ変換を活用して読んでいます。いま興味があるのは音楽心理学とマスコミュニケーション。東京の新聞記者のオンライン講義もあり、好きな分野を深掘りできる面白さを実感しています。周囲の友人は必要な時は助けてくれて、変に気を遣われることはありません。特別扱いされるのは苦手なので、心地よい距離感です。軽音楽サークルでバンド活動したり、野外ロックフェスのボランティアに参加したり、好きなことを自由にできる大学生活を楽しんでいます。

「普段どおり」は支援室があつてこそ



文学部 心理・応用
コミュニケーション学科
工藤 やすひろ
後藤 靖宏 教授
[担当科目：音楽心理学]

藤木さんは自ら学ぶ姿勢が身についており、授業を行う側として特別な配慮を意識することはありません。心コミではこれまでも障害のある学生を受け入れています。支援室のサポートのおかげで教職員の負担が軽減され、普段どおりに授業ができています。



大学の学びと経験を糧に 多様性ある職場を目指します！

[卒業生]
(株)花王グループカスタマーマーケティング
関越業務サポート部
工藤 捺菜 さん
社会福祉学部 福祉計画学科卒業(2021年3月)
(札幌北陵高等学校出身)

入学の際、授業についていけるか心配でしたが、充実した支援体制と真剣に相談に乗ってくれる支援室スタッフ、優秀なノートテイクのおかげですぐに不安は解消しました。コロナ前はほぼ毎日支援室に通っていましたが、オンライン授業に切り替わった時はスタッフや利用者が何度もオンラインで話し合い、情報保障の課題に全員で向き合ったことを覚えています。手話サークルで私がメインリーダーとなってクリスマス会を開催し、たくさんの人と交流できたのも楽しい思い出です。現在は人事系の部署で勤怠管理に関する業務を担当しています。今後はダイバーシティ&インクルージョン(多様な人材を組織で活かすこと)を推進し、障害のある人が働きやすい環境を整えていきたいと考えています。

本人の自立を尊重した支援を意識しています



社会福祉学部
社会福祉学科
佐橋 克彦 教授
[担当科目：専門演習]

障害のある学生の自立を考慮し、本人の意思を尊重した上で必要な支援にとどめるよう意識しています。工藤さんは同様の障害を持つ学生と助け合いながら、論文をきちんと書き上げていました。ダイバーシティの観点から、支援室が果たす役割はますます重要になりそうです。

Accessibility Support Office

- 利用時間 平日(月～金)8:45～11:30、12:30～17:00
(昼休み11:30～12:30)※スタッフ不在の場合は教育支援課職員が対応します。
- 連絡方法 直接窓口にお越しいただくか、以下の電話やメールでご連絡ください。
TEL.011-891-2731(代表) E-mail acc-support@hokusei.ac.jp
- アクセシビリティ支援室 A館1階の教育支援課の隣

アクセシビリティ支援室WEBサイト▼

